

市民病院だより

高齢者の運転について考える

小城市病院事業管理者
脳神経外科専門医

田渕 和雄

最近各地で高齢者ドライバーによる衝撃的な事故が頻発していることから、高齢者の運転について社会の関心が高まっているように思われます。

平成29年3月12日に改正道路交通法が施行され、75歳以上の運転者の認知症対策が強化されました。改正後は、信号無視、通行区分違反、一時不停止などの一定の違反行為をすれば、更新時以外でも臨時認知機能検査を受ける必要があります。今回の制度改正により、認知機能検査で「認知症のおそれ」と判定されると、その全ての人が医師の診断を受けなければならないようになりました。警察庁によると、昨年は75歳以上の約166万人

が認知機能検査を受け、約5万人が「認知症のおそれ」と判定され、そのうち約1、900人が医師の診断を受けました。しかし新制度によって、今後、受診者は年間約5万人と大幅に増える見込みです。

私は、今回の改正道路交通法の施行は、単に認知症のドライバーを発見する機会というだけでなく、認知機能の低下を早期に見つけるきっかけと捉えるべきではないかと思えます。認知機能検査で「認知機能低下のおそれ」と判定された人は、自身の軽度認知障害(MCI)をしつかり自覚し、認知症が発症する前にその対策に取り組むことが重要だと考えます。MCIの段階で放置すれば数年後には約半数が認知症に移行すると言われており、ここで予防に積極的に取り組めば認知症になるのを防

ぐか発症を遅らせる可能性が高まります。

人間は年を重ねるにつれ、運動神経や反射神経、判断能力が衰えていきます。作家の柳田邦男さんが雑誌「文藝春秋」(平成29年2月号)に寄稿した、「私が80歳で運転する理由」や、インターネット上で閲覧できる、「認知症高齢者の自動車運転を考える家族介護者のための支援

マニュアル」(長寿政策科学研究部のホームページ)など参考にあります。自動車を運転している高齢者が認知症になった時、運転者やご家族の中には、どのように対応すべきかわからず、日常生活にさまざまな問題を抱えていることと想像します。左記の、運転にまつわる認知機能低下を早期に見つける目安も併せてご利用ください。

運転にあらわれる認知機能低下「早期発見チェックリスト」

- 車のキーや免許証などを探し回ることがある
- 道路標識の意味が思い出せないことがある
- スーパーなどの駐車場で自分の車を止めた位置が分からなくなることがある
- よく通る道なのに曲がる場所を間違えることがある
- 車で出かけたのに他の交通手段で帰ってきたことがある
- アクセルとブレーキを間違えることがある
- 曲がる際にウインカーを出し忘れることがある
- 反対車線を走ってしまった(走りそうになった)
- 右折時に対向車の速度と距離の感覚がつかみにくくなった
- 車間距離を一定に保つことが苦手になった
- 合流が怖く(苦手)になった
- 駐車場所のラインや、枠内に合わせて車を止めることが難しくなった
- 交差点での右左折時に歩行者や自転車が急に現れて驚くことが多くなった
- 運転している時にミスをしたり危険な目にあったりすると頭の中が真っ白になる
- 同乗者と会話しながらの運転がしづらくなった

上記15の□に3つ以上チェックが入った人は要注意、専門医の受診検討を！
(NPO法人「高齢者安全運転支援研究会」作成の30問から抜粋、鳥取大学医学部 浦上克哉教授監修)

お知らせ

産婦人科の夕方診療を始めました(毎週木曜日)

受付時間 17時30分～18時30分 診療時間 17時30分～18時45分

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>